

第5学年 国語科の実践

1. 単元名 「人の生き方を讀もう 『レイチェル＝カーソン』」(全10時間 本時8時間目)

2. 単元目標

関心	・伝記というジャンルに関心をもち、レイチェル＝カーソンの生き方について讀もうとする。
読む	・レイチェル＝カーソンの生き方・考え方などを讀み、人物像を思い描くことができる。 ・レイチェルの思いを考えながら音讀することができる。 ・讀み取った人物像について発表し合い、レイチェル＝カーソンに対する理解を広げたり深めたりすることで、自分の生き方についても考えることができる。
話聞	・レイチェル＝カーソンの生き方や作者の見方に対する自分の考えを、友達の感想・意見と比べることができる。
伝国	・比喩表現が用いられていることに気づくことができる。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手立て・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ 「仲間への理解、自立する自分」

・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

<聴く・話すについての指導>

学習活動をはじめ、学校生活の様々な場面で、「聴く・話す」を意識した活動を取り入れている。まずは自分なりの考えをもつことの大切さを伝えるとともに、考える時間を確保することを心がけてきた。そして自分の出番を考えて質問したり、意見を言ったりすることができる学び合いにしていきたいと考え、指導を重ねている。話し手として、どの言葉を使えばよいのか、どのような順序で相手に伝えればよいのか考えながら話ができるようにしている。また、教師の発問や友達の考えに対して黙って聴いているだけではなく、自分の考えと比べながら聴いたり、わからないことを聞き返したり、思ったことを伝えたりするよう促し、「聴く」ことの大切さを指導してきた。友達の考えに対するあいづちやよいつぶやきを取り上げたり褒めたりすることで、反応できる子どもが増えてきた。相手意識をもった「聴く・話す」活動にしていくなかで聴くことのよさを味わうとともに、自分の話を聴いてもらえる心地よさを実感できるようにしている。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

わからないことをペアやグループで教え合ったり、友達の意見がわかりにくかったときには言い換えさせたりすることで、関わり合いが見られるようになってきた。友達の考えを大切に、ノートに記す子どもも増えてきた。しかし、全体での話し合いでは、話し手の相手意識や聞き手の受容的・共感的姿勢にまだまだ課題がある。相手意識をもって話したり友達の意見につなげて考えたりする場面が少しずつではあるが見られるようになってきたが、ひびき合いには至っていないのが現状である。代表委員会の議題、クラスのイベン

トや総合的な学習の時間の活動内容などについては、活発な話し合いがなされることが多い。自分の生活に関係する事柄や、興味がある話題、全員の考えが反映されなければいけないと児童たちが考えるものに対しては、意欲的に話し合い、相手の話を聴き自分の考えを深めることができる。学習の場面においては、反対・賛成などの意見が分かれるような問題や、正解が誰も分からないような問題などを扱った学習場面に対して意欲的に相手の話を聴こうとし、自分の考えを深めようとすることができ、普段は控えめな子の参加意欲も高い。なるべくみんなが参加できるような問題を学習場面で設定し、話し合ったことが自分の思いを強めたり、考えを深めたりすることにつながるよう努力しているところである。

4. 単元と指導

<単元について>

本単元は、学習指導要領第5学年及び第6学年「読むこと」の指導事項「ア」「エ」「オ」、及び言語活動例「ア」、また、「話すこと・聞くこと」の指導事項「エ」、さらに、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「イ」(ケ)を受けて、設定している。

実際に生きた、特定の人物の生涯を書いた伝記は、人物の生き方を通して、そのときの感情やものの考え方を読者に客観的に伝えることができるとともに、語りを通して、読者に人物の生き方を追体験させることができる。また、伝記を読むことを通して、人物の生き方をとらえることだけでなく、人物に対する作者の見方、そして自分自身の生き方へとつなげることができる。「人物」「作者」「自分」を関連づけて読み進められるようにしたい。

本教材では、地球上の全ての生き物が関わり合いながら生きている環境を守ろうと、自ら困難を乗り越えて訴え続けたレイチェル＝カーソンの考え方や生き方を主題として挙げることができる。全文の中で強く心に残った箇所を中心に、人物像を捉え、伝記の構成から作者の思いを読み、人物と作者と自分とを関連づけて、考えていけるようにしたい。

<指導について>

子どもたちの今までの読書経験の中で、伝記との関わりは少ない。単元の初めに、人物像をヒントに人物をあてるクイズをし、本教材「レイチェル＝カーソン」の人物像に興味をもてるようにする。初発の感想交流の中から、子どもたちの問いを見つけ、その問いを中心にレイチェル＝カーソンの人物像に迫ったり、事実を確認したりしながら、本文を読み深めていくことにつなげていく。「沈黙の春」執筆のきっかけになった一通の手紙、生物学者への道をたどる決心、本を書く仕事だけに取り組む決心、科学の目と文学の心が一つになったこと等、レイチェルの行動描写から人物像を読み取れるようにしたい。

本単元で児童が解決したい問題となるのは、作者が伝えたいのは、どんなレイチェルかなである。文章全体が4つの大きなまとまりで構成されている中で、2からレイチェルの生い立ちが述べられている。初発の感想の中で、文章構成に疑問をもつのではないかと考える。単元前半でレイチェルの人物像に迫り、後半で改めて文章構成に注目させ、その理由を考える中で、「作者の伝えたいこと」が、解決したい問題となっていくことが予想できる。初発で考えた感想から、本文を読み進めていくことにより、人物像の捉えが深まり作者の思いを考えていけるようにしたい。そして作者の伝えたいレイチェルの人物像についての考えを友達と伝え合い、共通点や相違点を比較することを通して、人物に対する理解を広げたり深めたりする姿を本時における「ひびき合い」の姿としたい。そのために、根拠をはっきりさせた上で自分の考えをしっかりともち、伝え合えるようにしていきたい。

**関心
読む**

- ・伝記というジャンルに関心をもち、レイチェル＝カーソンの生き方について読もうとする。
- ・レイチェル＝カーソンの生き方・考え方などを読み、人物像を思い描くことができる。
- ・レイチェルの思いを考えながら音読することができる。
- ・読み取った人物像について発表し合い、レイチェル＝カーソンに対する理解を広げたり深めたりすることで、自分の生き方についても考えることができる。

**話聞
伝国**

- ・レイチェル＝カーソンの生き方や作者の見方に対する自分の考えを、友達の感想・意見と比べることができる。
- ・比喩表現が用いられていることに気づくことができる。

4年社会 『二宮金次郎』

地域のために偉業をなしとげた人たち

5年道徳

希望と勇気、努力と強い意志 『内村航平』

真理の探究 『牧野富太郎』

個性の伸長 『手塚治虫』

希望と勇気、努力と強い意志 『浦田理恵』

国際理解、国際親善 『新渡戸稲造』

5年国語 (読む)

『注文の多い料理店』 宮沢賢治

C読むこと 言語活動

ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること

(自分の生き方などについて考えたことを伝え合う【新学習指導要領】)

**なぜ、レイチェル＝カーソンは
困難を乗り越えて「沈黙の春」を
完成することができたのかな？**

③④⑤⑥

<レイチェル＝カーソンの行動描写から

人物像をとらえる>

- ・一通の手紙がきっかけで、自分が世界中に危険性を広める役目を引き受けようと決意
- ・お母さん、お父さんの存在
- ・生物学者への道、科学の目と文学の心が一つになった
- ・お母さんの死・がんの苦しい治療・時間との闘い・「沈黙の春」の完成

<レイチェル＝カーソンの一生を

時系列で整理する>

<レイチェル＝カーソンの

二つの側面をとらえる>

- ・科学の目と文学の心

<これまでの読書経験をふり返る> → 伝記というジャンル

「国語のカギ・伝記」

<人物クイズ どんな人かヒントを出しながら答えの人物を考える>

二宮金次郎 エジソン ナイチンゲール 宮沢賢治

<教材文 「レイチェル＝カーソン」>

レイチェル＝カーソンは、どんな人だろう**『レイチェル＝カーソン』を読んだ感想を交流しよう①②**

<全文通読・初発の感想>

- ・一通の手紙がきっかけで、すぐにその問題を調べ、行動力がある
- ・4年もかけて書き上げ、途中で諦めないで、決意がかたい
- ・ヘビの脱皮を最後まで観察し、自分でしっかりと確かめ、根気強い
- ・研究論文を千編以上も読んで、事実を積み重ねていって、根気強い
- ・苦しい治療の合間をぬって、まとめ、原稿を完成させて、決めたことをやり遂げた
- ・なので、レイチェルは困難を乗り越えてがんばることができたのかな

- ・生物学者と作家と両方を兼ねている
- ・自然の中で育ち、お母さんの存在が自然好きになったきっかけ
- ・お父さんがとってくれていた雑誌の影響で作家の夢をもった
- ・大学で生物学の講義を受け、新しい世界に出あい、自然科学にひきつけられる。
- ・文学と科学の2つの道を選ぶのに、迷い思い悩んだ。
- ・詩の言葉に励まされて、生物学者への道をたどることを決心した
- ・本を書く仕事だけに取り組むことを決め、科学者の目と詩人の心をもつ作家として有名になった
- ・女性としてただ1人、公務員として採用され、書く能力を発揮する
- ・「沈黙の春」を出版し、人々に衝撃を与えた
- ・れんがを積み重ねて、大きな家を建てていくような…比喩表現
- ・深い満足感、涙がとめどなく流れました…つらかった思い、喜びが混ざった感じ
- ・春が来ても自然はだまりこくっている…「沈黙の春」題名とつながっている

・初めの部分だけが、レイチェルの生い立ちの時間通りじゃない

・どうしてこの部分だけ、最初に書いているのかな？

・分かりやすくするため？ ・作者の伝えたいこと？

作者の伝えたいのは、どんなレイチェルかな？⑦⑧ (本時)

<「レイチェル＝カーソン」という伝記を通して、作者が伝えたい思いについて考える>

- ・努力し続けたレイチェル ・困難を乗り越え訴え続けたレイチェル
- ・自然に優しい心をもつレイチェル ・自然を愛するレイチェル
- ・決断力のあるレイチェル ・自分の役目をしっかりと果たしたレイチェル

時系列で書かれていない文章構成に注目し、作者の思いについて考えられるようにする。

どのような人物として伝記に書かれているかを読み、考えたことを話し合うことができる。(読)

レイチェル＝カーソンの生き方と自分を照らして考えてみよう⑨

<レイチェル＝カーソンの生き方で共感するところや取り入れたいところをもとに、自分の生き方についての考えをもつ>

- ・やると決めたことを最後までやり通したレイチェルの生き方のように、自分も困難に負けずに夢に向かっていきたい。

- ・他の人物の伝記を読みたい ・レイチェル＝カーソンの別の伝記を読みたい

読書を広げよう⑩

6. 本時について

(1) 本時目標 レイチェル＝カーソンの生き方に対する作者の思いについて伝え合うことを通して、自分の考えを友達のと比べ、「レイチェル＝カーソン」について考えることができる。

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点【評価】
人の生き方を讀もう レイチェル＝カーソン 上遠恵子 レイチェルの生い立ちの時間通りではない文章構成 どうしてかな？ 作者の伝えたいこと 作者の伝えたいのは、どんなレイチェルかな？ なレイチェル 努力し続けたレイチェル 困難を乗り越え続けたレイチェル ・レイチェルが自らの困難を乗り越えて訴え続けたこと 自然に優しい心をもつレイチェル 自然を愛するレイチェル ・地球上のすべての生き物が生きていく環境を守ろうとしたこと 決断力のあるレイチェル ・レイチェルが人生の中でしてきた「決意」「決断」「決心」について 自分の役目をしっかりと果たしたレイチェル ・生物学者で作家でもあるレイチェルの果たそうとした使命 作者の伝えたいのは、どんなレイチェルかな？ 学習感想 （次時） レイチェルの生き方と自分	●本時の学習のめあてを確認する。 ●叙述から根拠をはっきりさせて、自分の考えをもてるようにする。 ●友達と考えを伝え合う際に、「自分と比べてどうか」、共通点や相違点を意識できるようにし、疑問がある場合には、全体で立ち止まって考えを整理する。 ●作者の伝えたいことについて、友達との交流を通して感じたことについて考えることができるようにする。 ●それまで学習したことに加えて、書き手である作者の思いについて考えたことで、「レイチェル＝カーソン」について改めて感じたことや思ったことについて考えることができるようにする。 ◇作者の思いについて伝え合うことを通して、自分の考えを友達のと比べ、レイチェル＝カーソンに対する理解を広げたり深めたりすることができる。【読む】 ひびき合いの姿 作者の伝えたいレイチェルの人物像についての考えを友達と伝え合い、共通点や相違点を比較することを通して、人物に対する理解を広げたり深めたりする姿

7. 実践を終えて

単元の初めに、人物クイズをすることにより、本教材「レイチェル＝カーソン」の人物像に興味をもつことができた。初発の感想の中から、強く心に残った箇所を中心に、レイチェルの行動描写から人物像に迫ったり、事実を確認したりしながら、本文を読み深めていくことができた。本時ではレイチェルの人物像についての考えを「～なレイチェル」という形で友達と伝え合った。叙述からの根拠を明確にして伝えたことで、レイチェルについての理解を広げるなど、ひびき合う児童の姿が見られた。また、単元の終わりには、人物と自分とを関連づけて考えることにもつながった。

本時で学習問題としていたのは、「作者が伝えたいのはどんなレイチェルか」であった。初発の感想の中で、文章構成に疑問をもつ児童もいたが、その疑問をもとに人物に対する「作者の見方」について、解決したい問題とまでは達していなかった。しかし、作者の存在を強調しなくても、児童がこの伝記から読み取った人物像こそ、作者の思いに寄りそったものであったと感じた。児童の問いを学習問題としてつなげ、単元のねらいに迫っていかれるようにしていきたい。

〈成果〉

- それまでの学習をもとに、一人ひとりが自分なりの考えをしっかりともち、いろいろな視点からレイチェルの人物像について積極的に交流する姿が見られた。
- 互いの考えの共通点や相違点について意識して友達と関わることができた。また、理由を伝え合うことで、同じ人物像を考えていてもその根拠が違うなど、人物像の捉えの多様さに気づくことができた。

〈課題〉

- 本時の問いであった、作者の伝えたい人物像については、単元の中での児童の思考の流れに合っていなかった。本文を読み深めていく中で「なぜ」と児童が思う問いを学習問題としてつなげ、児童の思考の流れが途切れることなく単元のねらいに迫っていかれるよう、計画を十分に練っていきたい。
- 話し合いの場面では、たくさんの考えを板書にまとめることが難しかった。児童の考えをカテゴリーで仕切ったり、ポイントを絞ったりするなど、板書も含めて話し合いのイメージをしっかりともてるようにしたい。また、聴いている児童の表情から読み取ることも意識していきたい。